

2016年11月期

決算説明会資料

2017年1月19日(木)

(東証第1部:8095)



イワキ 株式会社

本日のご説明内容

I .決算概況

II .セグメント別の概況

III .今後の見通し

I .決算概況


II .セグメント別の概況

III .今後の見通し

決算概況(2016年11月期)

減損損失計上により当期純損失となるも、大幅な営業増益を達成。

	実績	前期差額	前期増減率
売上高	551億円	△3.0億円	△0.5%
営業利益	9.7億円	+4.1億円	+74.6%
経常利益	10.7億円	+3.7億円	+54.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△5.9億円	△4.4億円	-

- 医薬・FC事業 営業利益向上 3.6億円 
- 化学品事業 減損損失計上 約10億円

I .決算概況

II .セグメント別の概況

III .今後の見通し

事業概要

4事業をさらに分解した“Business Unit”(=BU)を戦略単位としています。

売上高 構成比	原材料製造	流通	製品製造	卸売	小売	計 (事業別)
医薬・FC 事業	原料薬品BU 34億円	112億円	医薬品BU 61億円	その他特約BU 10億円		217億円 39%
HBC事業		HBC原料BU 100億円		ファルマネットBU 102億円	オリジナル製品BU 21億円	223億円 40%
化学品 事業	表面処理薬品BU 34億円 表面処理設備BU 13億円	スペシャリティ マテリアルBU 5億円				53億円 10%
食品事業	食品BU 13億円	24億円				37億円 7%
その他				動物 薬卸 20億円	調剤 薬局 3億円	24億円 4%
計 (サプライ チェーン別)	95億円 17%	242億円 43%	61億円 11%	132億円 24%	25億円 5%	552億円 100%

※連結消去の記載を省略しているため合計が合わない場合があります。

セグメント別の概況

上半期から引き続き医薬・FC事業が業績を牽引する。

セグメント分類

当期の概況

トピックス

セグメント分類	当期の概況	トピックス	
医薬品・FC	原料薬品BU <ul style="list-style-type: none"> ✓ 後発医薬品使用促進策により自社製品の伸長 ✓ 原料も既存・新規品ともに好調に推移 		
	医薬品BU		
	その他特約BU <ul style="list-style-type: none"> ✓ 小児向け医療機器新製品発売 		
HBC	HBC原料BU <ul style="list-style-type: none"> ✓ インバウンド需要による免税店向け商品の需要がひと段落 ✓ 機能性表示制度施行によるマーケット拡大に期待 		①天然界面活性剤の拡販
	ファルマネットBU		
	オリジナル製品BU <ul style="list-style-type: none"> ✓ テレビCM拡大による主力製品群の販売の伸長や新製品の発売などにより販売好調 		②化粧品通信販売の伸長
化学品	表面処理薬品BU <ul style="list-style-type: none"> ✓ 新製品への切り替えへ注力で一定の成果 ✓ 海外を中心に非常に厳しい状況 ✓ 減損損失の計上 		③化学品事業の概況
	スペシャリティマテリアルBU		
	表面処理設備BU		
食品	食品BU <ul style="list-style-type: none"> ✓ 天然調味料などの販売が堅調 		

①天然界面活性剤の拡販

HBC事業

業務提携により拡販を開始した天然界面活性剤へ引き続き注力。

経緯

- ✓天然界面活性剤を製造販売するAllied Carbon Solutions社と業務提携(2016年7月)
- ✓化粧品分野などで当社が優先的に販売する権利を有する



実績

- ✓国内外の化粧品メーカー**約100社**に販促活動を実施
- ✓サンプル提供 **50社**
- ✓評価中 **35社**
- ✓採用実績 **1社**



今後の見通し

- ✓化粧品向けに製品基礎データの分析
- ✓引き続きサンプル提供などの販促活動に注力
- ✓**当期中に大型製品への採用を目指す**



<原料：マフア>

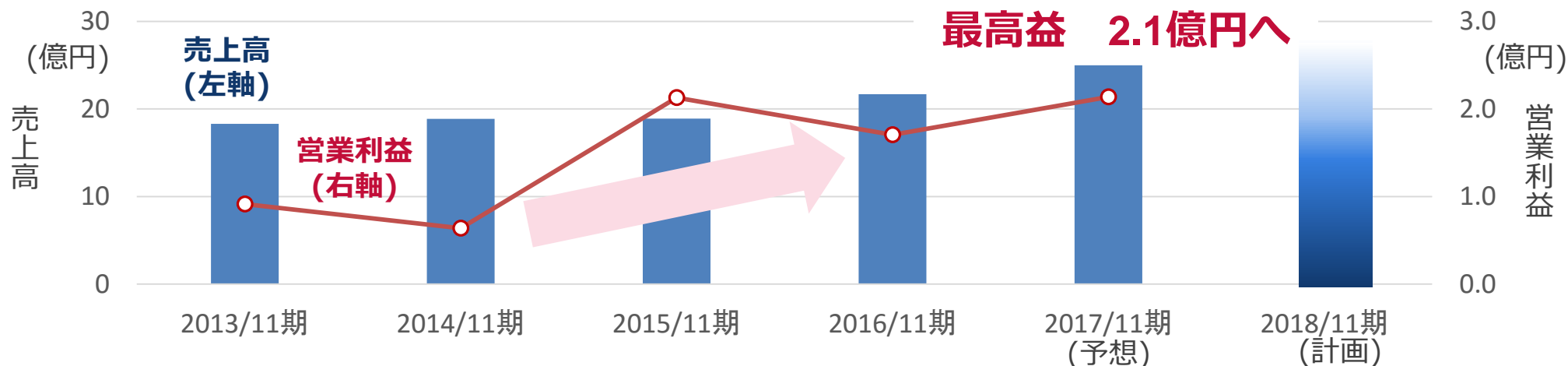


<ACS-Sophor>

②化粧品通信販売の伸長

HBC事業

化粧品通信販売においては過去最高益へ。



主な取り組み

新製品の積極投入

新製品投入による製品ラインナップの充実

泡立つ
ホワイトパック



ラグジュアリールージュ



オールインワンジェル

グループシナジーの活用

他の事業との協働による製品企画

◆たとえばコラーゲンでは・・・

ポーエン化成

原料



アプロス

製品



お客様へ



◆HBC事業部と協働により**サプリメントの開発中**

③化学品事業の概況

化学品事業

原価構造の改善

減損損失を計上も、当期からのROIC向上に寄与。

減損損失

10.4億円

土地	5.7億円	工具器具備品	1.2億円
建物、構築物	0.5億円	ソフトウェア	0.8億円
機械装置	1.5億円	その他	0.5億円

総資産

(2015年11月期末)

78億円



(2016年11月期末)

58億円

投下資本の削減に寄与

減価償却費

(2016年11月期実績)

3.2億円



(2017年11月期予想)

1.6億円

営業利益向上へ寄与

ROIC向上へ寄与

③化学品事業の概況

注力施策

化学品事業

新製品への注力へ加え提携品や他の領域においても積極的な施策を展開。

主力 新製品

- **ルーセントカパー**(プリント配線板向け硫酸銅めっき)
採用済 国内外17社 25ライン
採用内定 国内外2社
- **メルプレートSN** (電子部品向けすずめっき)
国内外複数社で評価中
大手海外メーカーにて採用済み
- **メルストリップSE-400**(微細配線向け銅箔エッチング液)
国内外のターゲット企業にて評価試験中

▶ **海外での
収益性確保
(主にASEAN)**

提携品

- **メルプレート クルモ** (光沢硫酸すずめっき)
自動車向けで採用
- **電子部品向け金めっき**
グローバルトップ製品への採用を目指す

▶ **ラインナップ充実
による収益性確保**

マテリアル 領域

- 日立化成との提携
- 基板メーカーとの協働による
基板材料ビジネスの検討

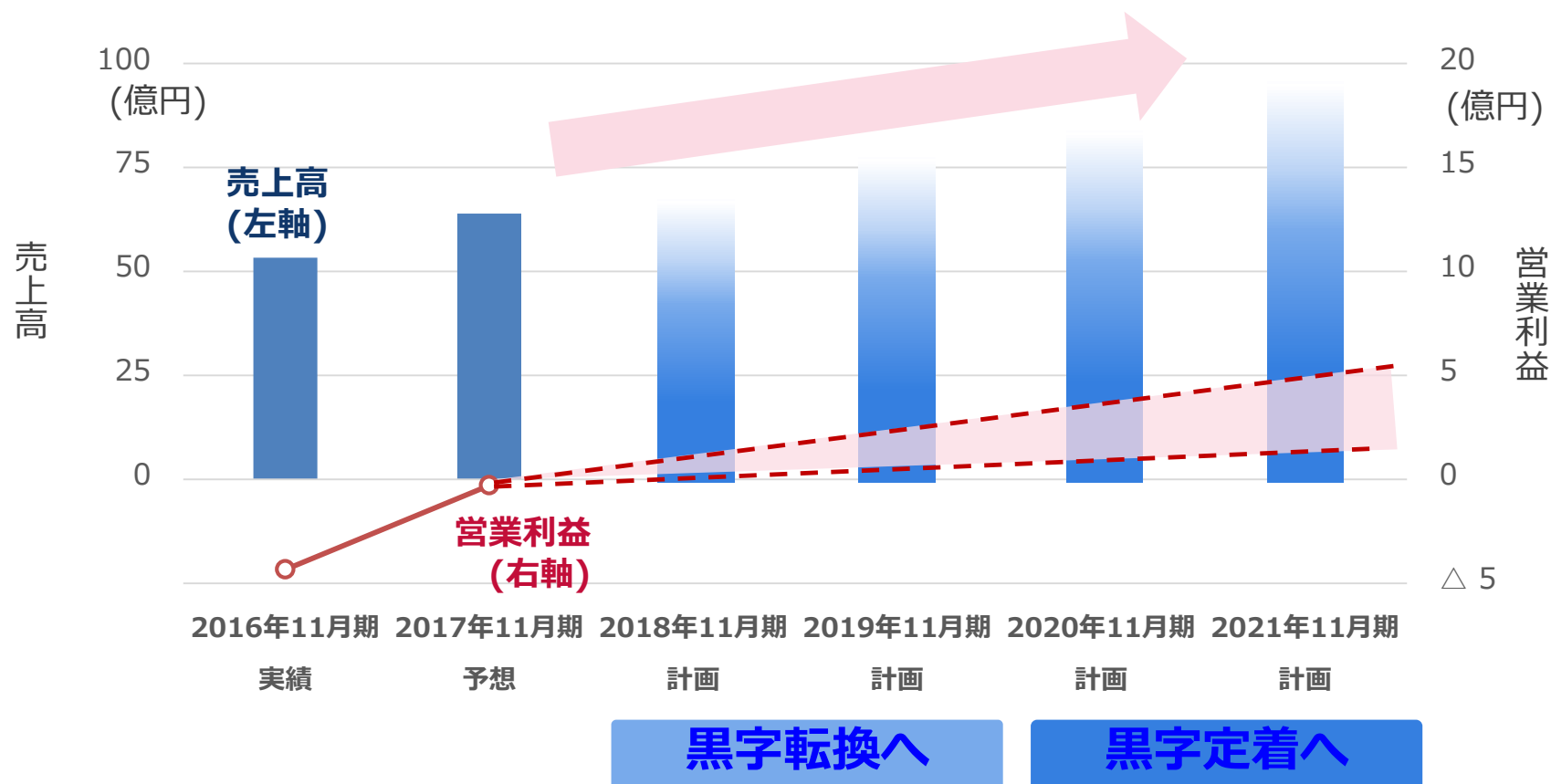
▶ **薬品以外の
収益性確保へ**

③化学品事業の概況

化学品事業の見通し

化学品事業

各種施策の実施により早期の黒字転換、定着を目指す。



④ ROIC向上へ向けた取り組み

ROIC向上へ向け、指標のモニタリングと改善策の検討・実施を行っています。

$$\text{ROIC}(\%) = \frac{\text{営業利益}}{\text{投下資本}} \times (1 - \text{実効税率})$$

$$\text{投下資本} = \text{売掛債権} + \text{たな卸資産} - \text{買掛債務} + \text{固定資産}$$

	投下資本	売掛債権 回転率	+ たな卸資産 回転率	- 買掛債務 回転率	+ 固定資産 回転率
2015年 11月期	209億円 ▼	3.5 ▼	10.8 ▼	4.5 ▼	4.4 ▼
2016年 11月期	196億円 13億円 ↘	3.6 0.1 ↗	11.1 0.3 ↗	4.7 0.2 ↗	4.7 0.3 ↗

▶ **ROIC** **3.2%** (前期比+1.5pt ↗)

④ ROIC向上へ向けた取り組み 投下資本削減実績

主に固定資産の削減を行い、約1.5億円のキャッシュ化が実現しました。

有形固定資産

・ 遊休資産の売却 旧仙台支店 **1.0億円** ↓

投資その他の資産

・ 投資有価証券の売却 **12銘柄** **0.5億円** ↓
※ゴルフ会員権含む

合計 **1.5億円** ↓

▶ 継続して削減の取り組みを実施

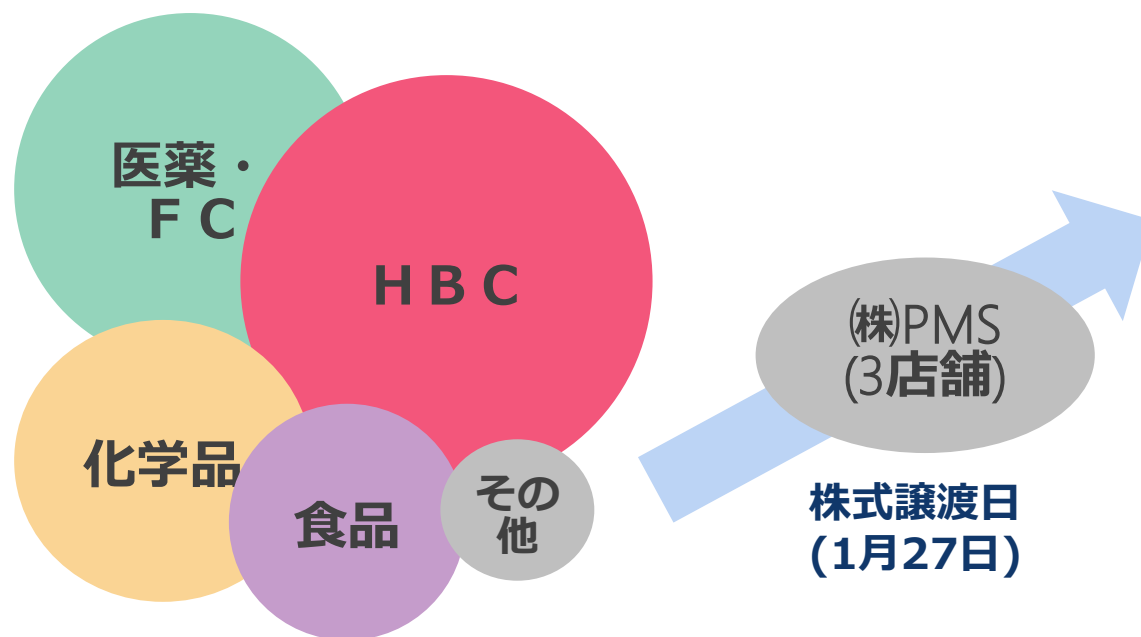
2017年11月期
予定

- 遊休資産の売却(駐車場、社宅跡地など)
- 各事業拠点の効率化検討
- 債権・固定資産の流動化の検討

連結子会社の異動(株式譲渡)について

調剤薬局を経営している(株)パートナー・メディカル・システムズ(PMS)の全株式を徳永薬局に譲渡いたします。

当社グループ



徳永薬局株式会社

(本社：東京都稲城市)

東京、神奈川を中心に
55店舗※を展開

薬局事業の拡大

経営資源の効率化
より効果率的な経営を推進

※グループ会社を含む店舗数 同社ホームページによる

ベトナム駐在員事務所の閉鎖

2016年12月31日付でホーチミン駐在員事務所を閉鎖いたしました。



さらには
メルテックス拠点も活用へ

<タイ王国>

- ✓ メルテックスアジアタイランド
- ✓ メルテックスアジアパシフィック

<大韓民国>

- ✓ メルテックスコリア

<中華人民共和国>

- ✓ 美緑達科技（天津）有限公司
- ✓ 弘塑電子設備（上海）有限公司

<その他>

- ✓ 台湾メルテックス
- ✓ メルテックス香港

I .決算概況

II .セグメント別の概況

III .今後の見通し

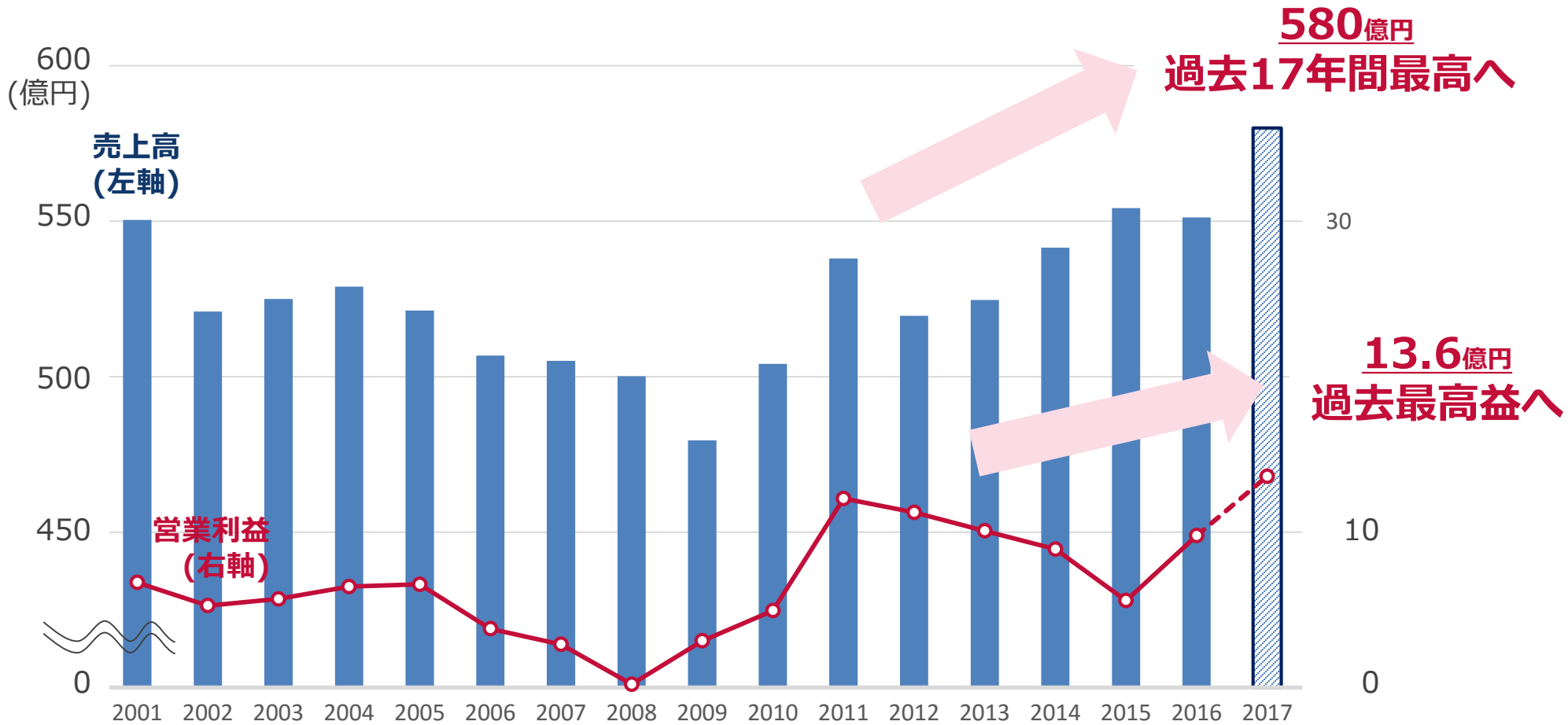
通期連結業績の見通し

2017年11月期は中期経営計画の第2年目として着実な成長、利益の確保を目指しています。

	見通し	前期増減額	前期増減率
売上高	580億円	+28億円	+5.2%
営業利益	13.6億円	+3.8億円	+39.2%
経常利益	14.0億円	+3.2億円	+30.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8.4億円	+14.3億円	—

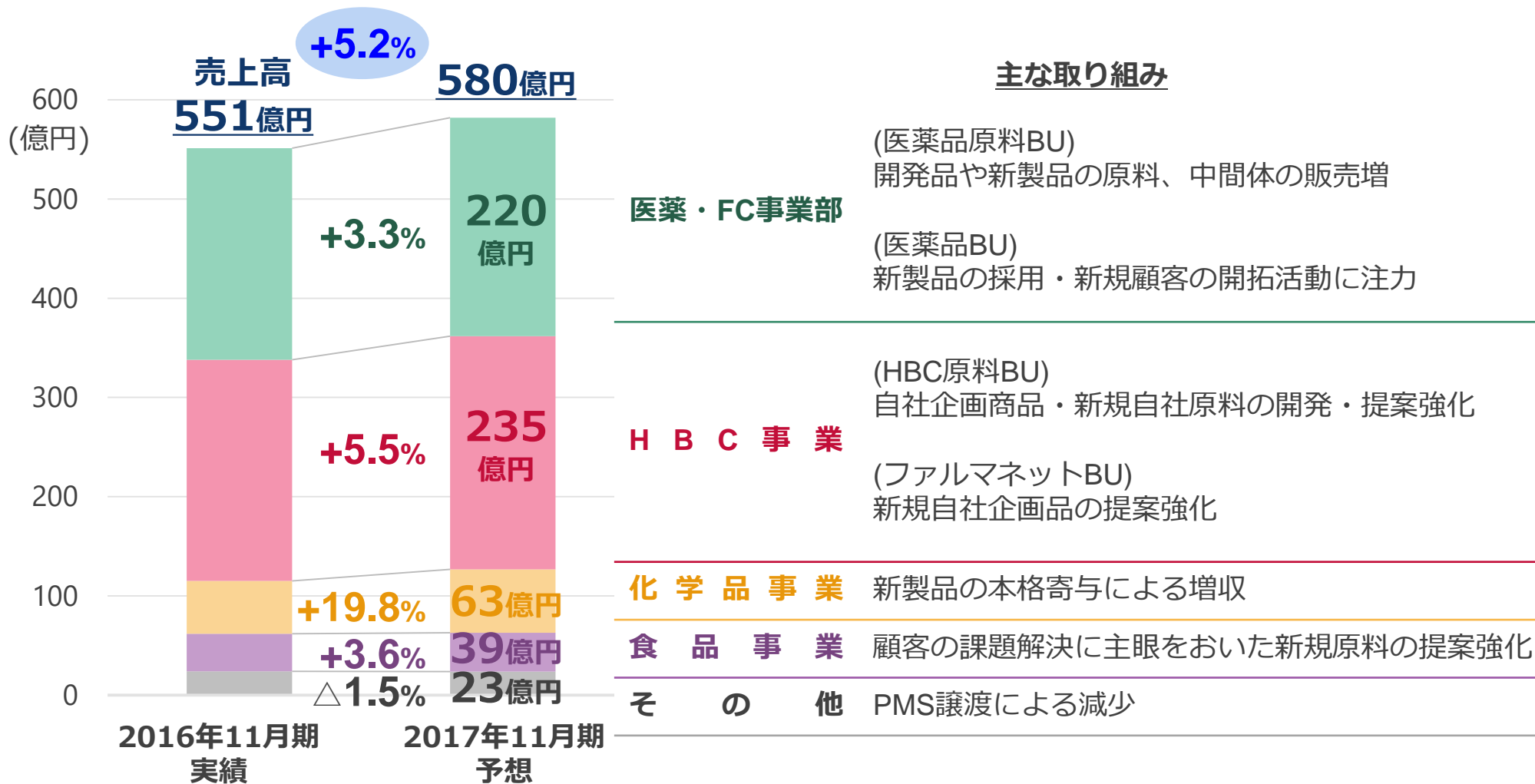
業績推移

増収傾向を維持のうえ、過去最高益を目指す。



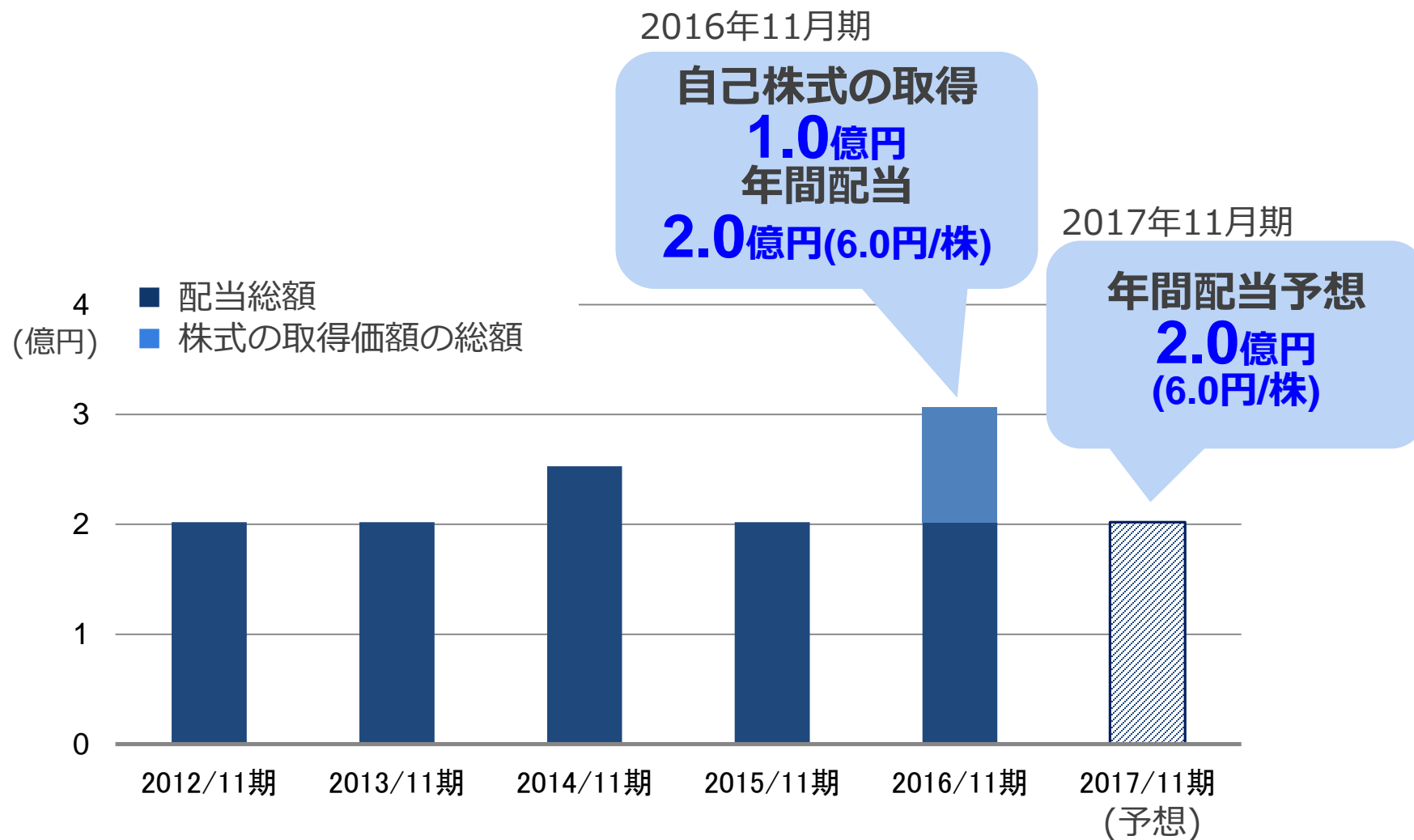
セグメント別の見通し

2017年11月期はすべての事業セグメントにおいて増収の見通し。



株主還元

株主還元および資本効率の向上を図るため、配当および自己株式の取得を実施。



問い合わせ窓口
伊ワキ株式会社
管理本部 経営企画部
Tel:03-3279-0564

- 本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報及び一般的に認識されている経済・社会等の情勢に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の経営環境の変化等様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれています